第５回　葛飾区地域公共交通活性化協議会　議事概要

日　時	令和８年 10 月 19 日（月）　10：00～11：30
会　場	葛飾区男女平等推進センター多目的ホール
出席者	別紙「第５回葛飾区地域公共交通活性化協議会　出席者名簿」のとおり
会議の公開・非公開	公開
傍聴者	１人
配付資料	資料１　委員名簿 資料２　葛飾区地域公共交通活性化協議会設置要綱 資料３　葛飾区地域公共交通活性化協議会の会議の公開に関する取扱要領 資料４　葛飾区地域公共交通活性化協議会について 資料５　新金線を活用した新たな交通システムの整備における検討状況について 資料６　小型車両活用デマンド交通事業の実証運行の中間評価について 資料７　地域公共交通計画の進捗確認・データ提供依頼について 参考資料　葛飾区地域公共交通計画・概要版 葛飾区内バス路線図 「かつライド」リーフレット その他資料　葛父母だより
会議次第	１　開会 ２　委員紹介 ３　議題 （１）【報告事項】 新金線を活用した新たな交通システムの整備における検討状況について （２）【報告事項】 小型車両活用デマンド交通事業の実証運行の中間評価について ４　その他 ５　閉会

議事進行及び発言概要

次第１　開会

事務局より挨拶、傍聴の決定。

次第２　委員紹介

資料１「第５回葛飾区地域公共交通活性化協議会委員名簿」によって代える。

次第３　議題（１）

資料５　新金線を活用した新たな交通システムの整備における検討状況について

＜質疑応答＞

○　会　長　　この協議会とも大きく関わる内容である。検討事項は広範囲にわたりしっかりと進めていく必要があるため、皆様にご協力いただかなければいけない。

事業化に向けては、道路、既存の鉄道・バス等への影響を踏まえるとともに、整備した交通システムを区民に有効に利用してもらうための検討が必要である。

また、自家用車から公共交通への転換やウォーカブルなまちづくりといった社会の流れを踏まえ、まちづくりと一体的に検討を進める必要がある。

○　副会長　　道のりは大変だが、魅力的な事業と感じる。

新たな交通システムについては、車両が自動車系であっても、鉄道に近いサービス水準を目指すことが望ましい。特に、定時性及び速達性を確保するため、事前改札、車内での乗車券確認、ガイドウェイバス、自動運転など、一般の路線バスとは異なる仕組みについて検討してほしい。

新技術の導入には相応の費用が必要となるため、将来的な費用低減の可能性も含め、中長期的な視点で検討することが必要である。車両についても、連節バスや国内外の車両など、さまざまな可能性を排除せず比較検討し、葛飾区独自の新しい交通機関となることを期待する。

また、BRT や LRT などの名称は一般に浸透しにくい面があるため、「かつライド」のように区民に親しみやすく、分かりやすい名称を工夫してほしい。

○　会　長　　乗り物としてはバスに近いものであっても、サービスとしては鉄道に近いものを目指し、新しい技術を取り入れながら検討してほしい。今後、関係者の知見や協力を得ながら、必要な調整を進めていただきたい。

次第３　議題（２）

資料６　小型車両活用デマンド交通事業の実証運行の中間評価について

＜質疑応答＞

○　会　長　　次回の活性化協議会の場で報告されるとのことだが、12 月に実施する最終評価において、本格運行への移行をどのように判断するのか、今後の見通しを含めて説明してほしい。

○　事務局　　実証運行の結論の出し方であるが、次年度予算の編成時期を考慮し、12 月時点で集計、分析が完了しているデータに基づき最終評価を行い、運行継続の結論が得られることが望ましいと考えている。次回の活性化協議会では、評価時点以降のデー

タも加え、報告予定である。

○　会　長　　承知した。中間評価では目標値をほぼ達成している。今後はサービスをさらに改善し、持続可能なものとしていくための検討が必要である。

○　委　員　　既存の公共交通機関への影響も考慮されながら、実証運行を進めていると理解しているが、かつライドの利用増加により、葛飾区内の他の地域でタクシーを捕まえにくくなった、駅の待機車両が少なくなったなど、既存のタクシー利用への影響が生じていないか伺いたい。

○　事務局　　タクシー事業者へのヒアリングでは、待ち時間が増えた、タクシーが捕まりにくくなったという話は聞いていない。かつライドの運行で他地域が不便になった状況は確認されていない。

○　委　員　　承知した。今後も、既存のタクシー利用への影響を注視してほしい。

○　副会長　　地域及び利用者の特性に配慮した事業設計となっており、利用者数が増加傾向にあるほか、利用者の不満が少なく、満足度も高いことから、引き続き実施してほしい。

区の負担額について、どの程度増加した場合に見直しを行うのか。また、公平性の観点から、利用者１人を運ぶために区が負担する金額を算出し、評価指標として用いることも考えられる。

利用件数は、増加し続けることが必ずしも望ましいとは限らない。適切な利用件数をどの程度と考えているか。

○　事務局　　現時点で区負担額の具体的な目安を示すことは難しいが、区内では、かつライドのほか、乗合ワゴンや路線バス、地域主体の交通など、税金を投入して運行している公共交通が複数ある。これらとの比較を行うとともに、利用者１人を運ぶために投入する税額を重要な指標として評価していきたい。

利用件数については、路線バス廃止時に実施した地域住民へのアンケートで把握した移動への影響や利用頻度を踏まえ、月 20～30 件程度を目安として設定している。地域の状況に大きな変化がなければ、この程度の利用件数であれば、サービス水準して適切であると考えている。

○　副会長　　利用件数については、根拠が明確であり考え方を理解した。今後、高齢化などにより地域の状況が変わる可能性はあるが、引き続き状況を確認しながら対応してほしい。

○　会　長　　区の負担額について、引き続き注意して検証してほしい。利用状況によっては、より効率的な仕組みへの見直しも必要になるため、本格運行後も随時検証することが望ましい。

また、１件当たりの平均利用人数が 1.5 人であることを踏まえると、区の負担額についても納得できる。また、乗合利用を促す方法も考えられる。例えば、１人で利用する場合と複数人で利用する場合の料金に差を設けることも、今後の検討方法の一つと考えられる。

最終評価に向けて分析を進めるとともに、アンケートやバス・タクシー事業者、利用者へのヒアリングを継続してほしい。

次第４　その他

葛飾区都市整備部より地域公共交通計画の進捗確認・データ提供依頼について

○　会　長　　交通の DX 化が進んでいるが、日本では公共交通や交通全般に関するデータの一元化及び分析が海外と比べて遅れている。海外の都市では、必要なデータを速やかに抽出できるダッシュボードの整備が進んでおり、葛飾区においても目指すべき方向である。今回のデータ提供依頼をその第一歩として、法律に基づく依頼として関係者に協力いただきたい。

災害時の安全対策・連絡体制について

○　委　員　　今年８月 13 日の葛飾区レベル 3 大雨警報発令時のような大雨時に、金町駅周辺のアンダーパスが浸水した場合、当該箇所を通行する路線バスや特別支援学校のスクールバス、障害者福祉施設の送迎車等に影響が及ぶ可能性がある。利用者には特別な配慮が必要であるため、関係施設に浸水情報が速やかに伝わるよう、注意喚起や連絡体制を強化してほしい。

○　委　員　　東京理科大学に近いアンダーパスでは強制排水を行っている。また、冠水が一定の水位に達した場合、自動感知装置から通知が入り、進入を防止するための警告が開始される仕組みとなっている。

今回の大雨時には、通知を受けた職員が現地に駆け付け、バリケードによる通行止めを実施した。短時間に下水道の処理能力を超える降雨があった場合には冠水の可能性があるため、その間の安全対策が重要である。国とも、一定の警戒段階で通行止めを行う取組について検討している。浸水箇所に関するナビゲーションや防犯カメラの設置なども含め、引き続き安全対策を進めていく。

○　会　長　　災害時の交通確保は重要な課題である。鉄道が停止した場合、鉄道とバス・タクシーでは輸送力が異なるため、バスやタクシーのみで対応することは難しい。災害時に交通を確保するためには、公共交通側の対応だけでなく、オンライン勤務の活用など、利用者側も移動の方法を変更することを含めて検討する必要がある。

次第５　閉会

○　副会長　　葛飾区では、新金線を活用した新交通やかつライドなど、新しい交通政策に前向きに取り組んでいる。新たな取組を積み重ねることは、将来の葛飾区における移動のあり方を決めていく上で重要であり、本協議会も重要な役割を担っている。

海外では、北米のように自動車中心の地域がある一方、ヨーロッパのように道路空間の一部をバス、自転車、タクシー等に配分する取組も進んでいる。葛飾区でも、自転車、バス、鉄道を便利に利用でき、自動車の利用も過度に不便とならない交通体系を目指すことが望ましい。

○　会　長　　サンフランシスコではロボットタクシーや自動運転タクシーが一般のタクシー同様に使用されており驚いた。新しいものは万能ではないが、新たな技術を取り入れていくことの重要性を実感した。

日本も世界の動向を踏まえ、環境に配慮したウォーカブルなまちづくりを一層進める必要がある。新交通やかつライドを含む、様々な交通施策を体系的に組み込み

	葛飾区の交通政策を進めていけるとよいと感じた。皆様には引き続きご協力をお願いしたい。